

青海花園先生醫考

外科大成

全

外科大成目次



桐敏自賦

大和論

○失榮氣癭委中毒

一

○委中毒ノ事

一

○失榮ノ事

一

○小兒陰莖腫大ノ事

二

○子宮脫ヲ入ルノ事

三

○交接出血ノ事

ハ

○腫物不可針事

ハ

○肺辺ニ毒有ル者ノ事

二

○小兒陰囊腐爛ノ事

二

○氣癭消長ノ事

二

○婦人乳腫其葛根加石事

ハ

●乳岩ノ事

三

○反鼻咬傷ノ事

三

○石癩ノ事

ハ

○手足ノ疵出血不止事

三

○治小兒解顛事

三

○洗金瘡ノ事

四

○金瘡見眼中黃色事

四

○膏茶カフレノ事

ハ

○呃逆上衝ノ事

ハ

○金瘡家禁忌ノ事 四ヲ
 ○咽喉疔ノ事 四ヲ
 ○破傷濕ノ事 五ヲ
 ○鉄炮菜効能ノ事 〽
 ○臟毒着込ノ事 六ヲ
 ○舌疽可太毒齒ノ事 〽
 ○上脘漏ノ事 六ヲ
 ○甘求丸ノ事 〽
 ○反花瘡ノ事 六ヲ
 ○癩疔ノ事 七ヲ
 ○服補天丸ノ事 八ヲ
 ○橘皮土大黃湯ノ事 九ヲ
 ○頭疔早可縫ノ事 四ヲ
 ○傷寒論瘡家不可出汗事 〽
 ○虎杖茎ノ事 五ヲ
 ○破傷風角弓反張事 〽
 ○腐牙瘡口瘡舌疽ノ事 五ヲ
 ○痔漏ノ事 〽
 ○乳漏ノ事 六ヲ
 ○血瘤ノ事 六ヲ
 ○腐菜瞑眩ノ事 七ヲ
 ○失榮ノ事 八ヲ
 ○腐骨疽ノ類不可指紐事 九ヲ
 ○瘡瘍生虫ノ事 〽

○諸瘍潰后用雞卵事 九ヲ
 ○用麻沸散事 九ヲ
 ○膏菜カブレ見如漆瘡者事 〽
 ○懸癰ノ事 十ヲ
 ○痼疾投粉劑事 十ヲ
 ○走馬疔 十ヲ
 ○青蛇膏効能ノ事 〽
 ○腐菜ニテ治瘡事 十ヲ
 ○梅毒薰菜不得効事 〽
 ○医者廣可翫味事 十ヲ
 ○瘡可取尽贅肉事 十ヲ
 ○外科可精内科事 〽
 ○下疳瘡 九ヲ
 ○腫物見流注ノ状事 九ヲ
 ○缺唇ノ事 〽
 ○胃脘瘡似肺瘡事 十ヲ
 ○小兒生而足反張ノ事 十ヲ
 ○瘡 十ヲ
 ○天刑ノ事 十一ヲ
 ○婦人頭瘡ノ事 十二ヲ
 ○白駁風ノ事 十二ヲ
 ○痔漏治療ノ事 十三ヲ
 ○治麻沸散瞑眩事 〽
 ○切痔漏而后疼痛ノ事 十四ヲ

○結毒膿尽后不生肌肉事

十四

○附骨疽事

十四

○淋疾

ハウ

○會陰打撲

ハウ

○金瘡用經日數事

ハ

○金瘡上盛下冷事

ハ

○撒夫藍事

十号

○陽經陰經割事

十四

○疹后患痔漏或癰事

ハ

○用腐菜可知齧肉共生肉事

十四

○難產后子宮腫事

ハウ

○麻沸散瞑眩緩急事

十六

○三症難治事

十六

○湯火傷事

十七

○犬毒事

十七

○肉瘤用腐菜可考事

ハ

○丹毒事

ハ

○婦人陰中腫滿事

ハ

○痘見樣事

ハ

○小兒豕鬚脫事

ハウ

○癰事

ハウ

○狼毒事

ハ

○破傷風事

十八

○流注事

十八

○豕鬚骨碎事

十六

○紅花代用干消夫藍事

十六

○打撲事

ハウ

○面部疵事

ハウ

○眼胞疵事

ハウ

○腫子疵事

ハ

○日上痛生事

ハ

○鼻疵事

十六

○疵不治事

十六

○突疵不可縫事

ハ

○版疵事

ハ

○腸疵事

ハウ

○腸出事

ハ

○矢疵鎗疵事

ハ

○腐菜ノ瞑眩不可不知事

二十

○肉瘤用腐菜事

二十

○破敵効能事

ハ

○小兒胎瘤事

ハ

○瘡瘍潰而后膿不止事

ハウ

○癰症事

ハウ

○腸痔事

ハ

○蘭人治乳岩事

ハ

○乳岩ノ事

サヲ

○金瘡ノ事

サヲ

○舌岩ノ事

サヲ

○木舌ノ事

ハウ

○痔漏附茶ノ事

ハ

○舌疽ノ事

ハ

○金瘡愈后神經不指ノ徵

ハ

○缺唇ノ事

サヲ

○癩疔針治ノ事

サヲ

○跖上附骨疽ノ事

ハ

○梅毒ノ事

ハ

○痘實膿后漏者ヲ治スルハ

ハ

○金瘡愈后接糸ノ事

サヲ

○金瘡ノ事

サヲ

○胸疵ノ事

ハウ

○陰茎疵ノ事

ハウ

○天刑ノ事

サヲ

○大頭痘用小葉加石 奇効アル事

サヲ

○使烏頭不瞑眩ノ事

ハ

○治耳聾ノ方

ハウ

○小兒解顛ノ事

ハウ

○治小兒四支痿弱ノ方

サヲ

○面部金瘡ノ事

サヲ

○猪瘡可取頑肉ノ事

サヲ

○痿中毒ノ事

サヲ

○梅毒凝血ノ事

サヲ

○舌疽ノ事

ハ

○痔漏ノ事

サヲ

○瘡瘍生虫ノ事

サヲ

○疣ノ事

ハウ

○鼻痔ノ事

ハウ

○乳岩愈后生動気ノ事

ハ

○麻菜煎法ノ事

ハ

○治結毒難動者ノ事

サヲ

○梅毒ノ事

サヲ

○疣痔反花ノ事

ハ

○小兒鎖肛ノ事

ハ

○黒子ノ事

ハ

○乳岩腐爛ノ事

ハウ

○破傷風ノ事

ハウ

○腸痔知虚實ノ事

ハ

○舌疽ノ事

サヲ

○医者病ノ可知機微ノ事

サヲ

○打撲揉治ノ事

ハウ

○洎夫藍用様ノ事

ハウ

○イ子ヤニカスルヲ治スル事

ハ

○治鉄炮玉不取ノ事

ニヲ

○薰菜不用下無効ノ事

サヲ

○脫疽ノ事

三三

○版瘰ノ事

三三

○血氣道二入ノ徵

ハウ

○石瘰ノ事并切様

ハウ

○腫物等ヲ切仕方ノ事

三三

○金創縫様ノ事

三三

○痔漏ノ事

ハ

○腫物附劑石羔劑用様

ハ

○癩疾知不治ノ事

ハウ

○欲用麻沸湯可能診察事

ハ

○雞施腐菜場合ノ事

ハ

○百葉瞑眩治方ノ事

三三

○治腫物雞乾者ノ事

三三

○禿瘡愈后治不生毛事

ハ

○梅家骨腫論ノ事

ハ

○毒箭疵洗様ノ事

ハ

○治指頭急痛ノ事

ハ

○治腸瘰ノ事

ハウ

○柔ヲ早ク為末ノ事

ハ

○分真瘰梅瘰ノ事

ハ

○痲赤遊ノ事

ハウ

○梅毒結毒大便不利治方事

ハ

○瘰癧治方ノ事

ハ

○黒子忘二不可取ノ事

三三

○烏頭或腐菜瞑眩ノ治方

三三

○包茎反花ノ事

三三

○瘰癧ノ事

ハウ

○流注ノ事并婦人耳前

ハウ

○鎖肛ノ事

世四

○鎖陰ノ事

世四

○雞産尿道破裂ノ事

ハウ

○火傷后四指不伸ノ事

ハウ

○医者可知病機ノ事

世三

外科大成

青洲先生医談

○先生一日塾生ニ語テ曰失榮氣癰委中毒ノ如キ者ハ至テ
難治也子輩其形状ト症候トヲ能知テ右等ノ病タレトヲ
見誤ルト十カレ世医ソノ難治タルトヲ知ラス其危ニ臨ミ
救ワレサルヲ見テ初テ其誤タルトヲ覺厚顔ニ而其拙ヲ
掩フ者僂アリ予先年橋元馭ニ工匠某ナル者アリ頭ノ
下ニ瘤状ノ如キ者ヲ癸ニ来テ治ヲ乞フトリト見テ竊
ニ其從者ニ告テ曰是所謂氣癰ナルモノニメ古来ヨリ是
ヲ治スル人ナシ恐クハ数日ノ后出血メ死ニ至ベシ早ク
連レ歸リ竊ニ其家内ノ人ニ告ヨ患者ニ聞スト十カト
云ケレバ從者大ニ驚キ先生治術ナシト云ハ恐クハ外ニ

治スル人モアルマシ願クハ某バカリモメクマレヨト云
ケレバ数十貼ヲ其ヘテ去ラシメタリ后二三日ヲ経テ
果メ出血メ死タリ

○又一人同症ニテ治ヲ請予是ヲ見テコレニ諭スニ去シメ
ニイヲ欲スト虽聞入サルユヘ一医ニ手筒ヲツカワシ帰
サシメタレバ是モ四五日ヲ過ズメ逆血メ死タリ

○先生曰委中毒ハ委中漫腫メ痛疼忍ヘカラヌ后黒腐
ニナリ惡汁出テ膿ニナラス膝胫次第ニ脱肉シテ骨トカ
ルモノ也時毒十トニテ委中漫腫ニ痛ム者アレハ脱肉セ
ス及テ膝胫腫ル者也忽ニスベカラヌ

○又曰失榮ハ肩ヨリ下ニ生セヌ多ク耳下及項ノ辺ニ生
スル者也初起核ヲ結テ漸ク大キクナリ甚硬ク是ヲ瘰
スニ向運轉セヌ后ニハ自然トロアキ惡汁出テ膿ハ

痛ヲナスモノ也其翻花スルニ及テハ殆ト乳岩ノ及花
ト同シ

○小兒頰ニ陰莖腫大ニナルモノアリ榊木湯ヲ其ヘ火吹管
ヲ以テ頻リニ陰莖ヲ吹シメタリケレバ愈タリ此術本草附
方ニ出タリ

○子宮脱ヲ入ルニハ荷葉ヲ湯ニ浸シ子宮ヘ当レハ能入ル
モノナリ

○交接ノ時出血スル者ニ補中益氣湯ニ鹿胎霜ヲ加テ服
スレハ能治スル者也

○先生曰凡腫物塊ニ動氣有テ手ニ應スルモノハ針スベ
カラヌ必出血スルモノナリ

○先生^二曰凡肺^二迎^二毒^一アル者ハ脉数ヲ示^ス者也不可不知
○小兒遺毒ニテ陰囊腐爛スル者ハ蔓除砂花煎汁ニテ
洗ヒ内大解毒劑ニテ愈タリ

○先生曰氣癰時アツテ消長スルモノ少ク赤クメ皮
至テ薄キ者ナリ

○麻沸散ヲ與ヘテ後醒サル内ニハ防風ヲ用エベカラス

○先生曰婦人乳腫痛ニ益家ニテ葛根加吉更ヲ用ズレト
其方意會スヘカラス予常ニ葛根加石ヲ與フルニ効アリ
然レト又不穩レト同シクハ其然ラサルヲ以是ヲ用ハ
石羔ヲ用ズルモ可ナラシカ且和鮮湯ノ方中ニ葛根石羔
ノ配アリ予ニハラク拠之

○療瘰二芟枯草煎ヲ服終テ能食スル者ハ應スルノ節後

ナリ

○先生曰乳岩再發スル者ハ凡百日許ニメ聚ル也一年モ
メ聚ル者ハ散聚湯不足故ナリ

○又曰乳岩ヲ治スルニ鈎吻草^{尾シテ又敗大セリ}ニテ蓋方アリ試之ニ發熱
メ腋癰十ト發シ岩類ニ增長シテ死スル者ナリ

○先生曰反鼻咬傷ヲ治スルニ内烏頭湯ニ菜圓ヲ兼用
之外傷所ヘ柿ノ渋ヲ塗ヘシ痛甚者ニハ豕柳散ニ雄黃
ヲ加ヘ擦スベシ痛立處ニ止ム也然レ腫ヲ發スルナリ有

○又曰石瘰ハ會陰ニ滯ルモノニアラス陰莖中ニ生スルモ
ノ之下ヨリ切開キ出スヘシ疵ニハルサニヲツケ尿道ヘ
霍ノ羽ノ本ヲサシ小便ヲ通シサセ卷木綿スヘシ三四
日ニメ愈ルモノナリ

○手足^三ノ疵動血脈ニ当リ出血スル寸世^三醫ニ三寸バカリ
上ヲク、レ斥血^尺イ^尺ヨク^尺出テ止サル^尺ナ^尺有リ思フニ委中
沢^尺ナ^尺トヨリ血ヲト^尺ニ上^尺ヲ縛^尺レハ血能出ル也考ベシ

○先生曰小兒鮮顛ヲ治ルニ其初起ナレハ急ニ葛根加木
附ニ紫田ヲ兼用メ可之予既ニ數人ヲ治スルニ効アリ七
八年以前一人治ヲ乞是ヲ見ルニ頭顛ステニ鮮ケ目上竄ニ
勢ヒ殆ト救フベカラス故ニ治ヲ拒メ斥強テハリセ^一ナ^一ヲ
請フ予辞曰今針刺ヲ試ニス若是ニ針セハ反テ死期ヲ
促之從者曰医ヲ轉スル^一ナ^一數人皆不治トス先生若シ是ヲ
刺テ不治モ又命ナリト云テ強テ乞遂ニ針スル^一ナ^一寸ハカ
リニメ黃水逆出メ勢少シ減レ斥漸ニ脱状ニ見ル、故急ニ
飯サシムレハ后二日ニメ遂ニ死ス

○金瘡ヲ洗フニ燒酎ハ六夕ニロウサワトロヲ四^分加テ用
スル^一ナ^一モアリ又山家ナドニテ耐ナキ寸ハ^諸白ニテ洗フ
モヨシ

○膏菜ニカフル、人アリ此ニ左突メイ子ヤヲ用ニト欲セ
ハ鷄子白ヲ少シ煉交テ貼スヘシ又ハ紫雲或金瘡油杯
ニテ代ルモ可之又右ノ症ニハ前衝ナトモ用ヒ難シ故ニ紫
雲ニ決勝ヲ煉リ交テ前衝代ル之又曰紫雲ニ雞子白ヲ
煉交用スルモ可之此症ハ白雲ニテカフル^一ナ^一アリ

○先生曰金瘡家ニ眼中黃色ヲ見ワスモノハ脱血ノ徵ナリ
○又曰吐逆メ上ヘ迫ル^一ナ^一ニハ干姜黃連人參湯力能ク應
スル^一ナ^一

○金瘡家酢酒茵ノ數^斗五辛五葷ノ類禁スヘシ又憤怒房

四
夏七堅ク忌ヘシ

○先生曰頭ノ疵^疵早ク結縫フヘシ若シ^疵十トニ疵アリ

○燒酒十ト入レハ膿ニナル心得ベシ又頭ノ疵ニハメイ子ヤヲ

用ヒス若シ用ズル寸ハ隨分アサク刺ヘシ又腦髓ノ出ル

ヲ治スル奇方アレト今ハ不用テキステイヒヲ用ズ眼

胞ノ疵ハ前衝ヲ用ズル寸ハ其毒血ノ未加フベシ

○先生曰咽喉ノ創氣道ハ少シトシテハ治ス半分モカレハ

トテモ不治之食道ハ半分位ナレハ隨分治ス者之

○先生曰凡テ痛ムト云ハ血氣通セズ滯ル故之金創十ト

ニテ痛ムハ血氣ノ迴ラサル故之行氣サヘスレハ^則敗止ム之

天刑十トテ痛ムモ又同シ

○先生曰傷寒論ニ瘡家ハ発汗スヘカラスト云金瘡家

トニ非ス瘡十トノ潰膿シタルヲ云之潰膿シタル者ニ^汁

スルハアシ、

○先生曰破傷濕ノ一証治準繩ニ見ヘタリ然レト方ハ異

也此症ニ越婢加朮附湯ニ虎杖茎ヲ加ヘ用ズル外神方

ナリ

○又曰虎杖茎ハ能解毒スル者ト見エ根ハ能破血スルモノ

○先生曰鉄炮菜ハ甚能腐ラス者之血氣ヲシメ瘡口乾涸

メ后ニ腐此方意ヲ察スルニ硫黄十トハ愈ス効アリ然ルニ

反テ腐菜トナルハ立法妙之是ニ拠テ諸妙立方上ニテ効

アルヲ知ヘシ

○先生曰破傷風ニテ角弓反張スル者ニ如聖散ヲ用テ効

アリ此ノ方ハ餘程毒深キ者ニ用エ

○先生曰臟毒ノ着法ハ肛門ヲ開見ルニ肉蝕シテ甚廣少ナリ赤小豆汁ノ如キ者ヲ下シ甚臭氣アル者ニ其甚キ者ニ至テ及花スルニ先不治ノ者ト見エ

○先生曰齧牙瘰口瘰舌瘰ノ三症ハ口科不治ノ者ニ然レ氏舌瘰ハ予近年ニ丈メ数人濟フヲ得タリ齧牙瘰口瘰ノ二症ニ至テハ未タ治法ヲ得ヌ何レニモ腐菜ノ下見ヘタリ

○又曰舌瘰ハ凡十二八九ハ治スルニ然レ氏毒齒ヲ去ルカ主ニ薰菜ハ其跡ヲ愈ヌ為ニ

○先生曰痔漏ヲ割云出血不止決勝ナト効ナク如何トモスベカラサル症ニ硫黄ノ油ニテ其毒血ノ未ヲトキ患處ニ

貼之内四物加牛皮消湯ヲ用エレハ能トニル者ナリ

○先生曰上脘漏ヲ切り出血杯不止者ニ決勝ヲ以テ綿

ニテ抑ヘテ止ル者ニ然レ氏指ニテ久クハ抑ヘ居ラレズ故ニ予一方ヲ製メ止タリ其方ア、カアカルニスニ硫黄

粘允未ヲ少シ加ヘ攪セテ口ニ含マシムルハ甚能止之

○先生曰乳漏膿汁久ク不尽メ難愈者ハ先破敵ニテ湯之メイナヤヲサシ后ニハ左突或ハ金瘡油或ハハルサシノルイニテ補ノ經ヲサシハジメヨリ終ニテ葛根加水附ニ端的ヲ兼用スレハ治スルニ又大黄牡丹湯兼伯州散ノ症モアリ

○先生曰甘朮丸ノ効ハ甚緩ナル者ニテ能解スル者ニ毒ヲ動カスホトノ効ハナシ長服ニアラホレ公効ヲ得カク

然氏長服スレハ腫ヲ癸スルコトアリ油断スヘカラズ腫ヲ癸スルハ毒ニ不堪故ニ命損ス

○先生曰血瘤ヲ治スルニハ先針ヲサシ置カラフアニコウヲ針ヨリ少シ大キ者ヲ以テ予早ク刺ベシ去スレハカクヘツ失血モ十キモノニサテ一兩日ヲ経テ紫黑色ニトリタル時ヲウカ、ツテ其紫コク色ノ中へ又マイノ如クメ西三本ヲ刺スベシ又ソノ大ナルモノハ西三日隔テ右紫黑色ヲ伺テ刺スベシサスレハ出血暈倒ナトノ患ナクメ能治スルモノ

○又曰友花瘡ハ腐菜ニテ治スレ氏先難治ノ者之先年一男子臉骨ノ辺ニ血瘡アリ予一医治ヨリ熱テ半友花セリ予腐菜ニテ腐ラシ取タレ氏眼胞ニ至リテハ眼ヲ突ニテ

思レテ意ノ尽ニ術ヲ旋サレ氏甚能取レテ殆_下常ノ顔ニ異ナラス然レ氏又一兩年ヲ歴テ右ノ眼胞ヨリ文サシ及花セリ因テ又右ノ術ニテ又治シタレ氏五六年ヲ歴テ又癸之遂ニ死ニタリ

○先生曰腐菜ノ眼胞ハ渴ヲ生シ飲食不進惡寒癸熱水ノ症ヲ癸スル也其劇ニ至テハ煩渴煩悶ノ毒心下ニ迫テ遂ニ命ヲ損スル者ニ油断スベカラズ早ク黃連解毒湯或ハ甘連石羔加菘豆湯杯ヲ手強ク用スベシ

○先生曰癩疔ヲ治療セ下欲セハ先其難易ヲ知ルベシ陰囊偏墮自若トメ漸々腫大ナルハ治ニ易シ術ヲ旋スベシ陰囊時アリテ消長ノ痛小販ニ引者アリ治ニ難シ按スルニ疔毒小膿ニ有テ腸ヲ推スニヨリテ大腸陰囊へ下垂ス

ル者ト見^七之予先年此症ニ術ヲ旋シ大便針ニ隨テ下リ
臭氣堪ヘカラサリシトアリ必此症^病ニ術ヲ旋ス^トナカレ腸
中ノ疵ヲ設ル故次第ニ脱^試ヲ見ワシ遂ニ命ヲ損スルニ至
又一種アリ原ト偏墜ノ症ニメ梅氣ヲ患ヒ遂ニ頑肉ト成ル
者アリ其頑肉ハ剪刀ニテ割或拔毒ノ類ニテ腐ラヌ
レハ治スルニ其軟ナル処ハ術ヲ以テ治ヲ旋スベシ然レト
腐菜ノ甚瞑眩フル処故妄ニ治ヲ旋セハ誤^ト有リ
慎^シムベシ

○又曰癩疔ノ水ヲ抜^トハ世医ノ能知ル処ニ然レト唯一
時ノ快ヲ得ル^ト予是ヲ治スルニ術アリ先畢丸ノ処
左ヲ能知リ剪ヘキ処ヲ見キワメ抜針ヲ下スヘシ又其抜
針ニ隨テ糸毛引ヲ入レテ抜針又キ溜水ヲ去^ルベシ然

ラサレハ運轉メ針口ヲ失ヌ扱其溜水尽テ后左突^縫ヲ
サシ遊奕ニテ蓋シ其縫ノ又ケホルヲ要ス内烏頭湯ヲ與
フベシ此ノ症稟受ノ時衣膜アリテ相ツム故水ヲ去リ
テ毛膜未タ除カサル故ニ愈テ又癢スルニ故予左突メイ
チヤヲ用テ其内膜ヲ腐ラシ去ルニ其腐ラスニ石品ヲ
用ヒサルハ唯瞑眩メ大益ヲ得サル故ニ予按スルニ凡入
身中ニ他物ヲサシ入ル^ハ寸ハ膿潰セサルハ十ニ故ニ予左突
ヲ用ユ又烏頭湯ヲ與ル^ハ其毒ヲ動カス為ニ扱治
ヲ旋メ后二三日ヲ歷^テ大ニ熱ヲ癢シ且陰囊腫^曰ニ倍
スル者ニ驚リヘカラス其膿ニテ后又前^ヲ如ク縫ヲサシ蓋
シ清肝滲濕湯ニ轉スベシ凡治ヲ旋メ后五六日ニ及^ル

膜化^ハ之尽テ全愈ヲ得ルモノ也

○先生曰失榮ハ不治之予曾テ猛并柔丹ヲ水菜ト成
之用以タレハ瞑眩甚ニツ苦楚堪ヘカラサルニ至ル然レモ
失榮ハ十八九減タリ漸患者其瞑眩ヲ忍テ二三劑ヲ尽セ
其瞑眩スルムニ隨テ又初ノ如クナリテ遂ニ死シタリ又一
婦人未治ヲ請フ是失榮也此ヲ診スルニ未タ反肉ニモ及
ハサレ口開キ難クメ飲食ヲ害スル故ト宝丹一劑ヲ與
ヒタレハ腫ク之減シ飲食ヲ能スルニ因テ又一劑ヲ作り
黃連解毒湯ヲ數十貼與ヒ飯サシメタレハ三四日ヲ歷テ
死ヲ告ケタリ

○先生曰補天丸ヲ服スルニ吐氣ヲ催メ飲ミ兼ル者ハ酒ニ
テ送下スベシ若止サル者ハ生姜甘草湯加黃連少煎汁
ニテ服スベシ或冷水又ハ小半復湯ノ煎汁ニテ服ス
ヘシ應スルモノ也

○凡胃腹及五臟ニ近キ腐骨疽ノ類ニハ壯ヲサスベカ
ラス多ク脱症ヲ見ワスモノ也

○眼胞或唇辺ニ塊アルハ肉ヨリ取ルヘシ是一術ナリ

○先生曰橘皮土大黃湯癬瘡ヲ治スルニ甚妙也一人小瘡

ヲ患フ差后兩三年小サキ疥出テ痛痒忍フヘカラス搔ケ
ハ出血スル者アリテ諸治効ナシ予橘皮土大黃湯ヲ與ヒ

テ七八貼ニメ愈タリ

○復月瘡瘍ニ虫ヲ生スルニアリ燒酎ヲ微ニク温メ胆若

少許ヲ攪テ洗フヘシ

○先生曰諸瘍潰テ后脱症ヲ見ワシ面色青白シ元氣盡ス

○ル者ハ雞卵肉ヲ餌食汁スヘシ

○下疳瘡ヲ患ル人陰莖ニ凝血スル者アリ乱刺メ血去

リ中黄ヲ貼スベシ

○麻沸散ヲ用ニト欲ヤ急羊復浮心ノ灸廿七日モ以前ニ
用テ心下ヲスカシテ后用スレバ能應スルモノ

○凡腫物流注ノ状ヲ見クス者ハ因ヲ論セ又越婢加朮附
湯ヲ與ヘテ可シ

○凡膏菜ニカスレ漆瘡ノ如キ者ヲ癢ニ搔痒ニ堪ガル者ハ
創口ヲ避ケテ荊芥湯ニテ洗フベシ

○先生曰予缺唇ヲ療スルノ凡二百人ニ及ヘリ其中西缺ノ
者三十人許リアリ小児生レテ翌朝直ニ縫エテモアリ又四
十歳ニナル者ヲ縫エテモアリ

○先生曰世ニ懸癧ト称スル者多ハ淋漏ニメ真ノ懸癧ハ
稀ニ淋漏トハ淋毒溺道ニ塞リ遂ニ膿ヲ十ニ會陰ノ辺
ヘ潰ヘテ后小水漏ル、之腎或ハ陰囊ヨリ漏ル、者アリ
然レ厄大半ハ陰莖へ出ル、其陰莖へ一向通セサルニ至テ
ハ難治ニ此ヲ治スルニハ枝穴アル者ハ先其支穴へ紐ヲサ
シ愈スベシ支穴愈テ后本管ヲ、サヘ小水ノ漏レハルヲ
以テ要トスヘシ小水終リノ后ハ又其餘瀝ヲ絞リ出スベ
シ少シニテモ溜レハ愈カヌ、方ハ大黃牡丹湯ニ意致
仁ヲ加ヘ消毒丸ヲ、サスベシ

○先生曰胃腕癧ハ肺癧ニ疑似スル者ニ痛ハ肺部
リ腹部ニアリ且肺癧ヨリ膿血ヲ吐スルノ多シ其多キニ
至テハ二升ニ至ヘリ治方ハ排膿散或ハ時々吉更白

散ニテ下ヲ取ルベシ

○先生曰痲疾ヲ治スルニ粉劑ヲ投セント破セハ緩ニト長服サスヘシ然ラサレハ上ヲ走リメ効ナシ譬ハ復日外天ニ牽ノ水ヲ一度ニ地ニ注シテ知レ但上ノ潤フテ底及ヒ難シ又一壺ノ水ヲ扱ラレテ少ツク地ニ灌リ時ハ自然ニ潤ヒ底透ルノ理トヲ示シ

○先生曰小兒生レ十カラニメ足ソリ反リ地ヲ踏フ不能ル者アリ是ヲ治スルニ幼穉ナル時術ヲ旋ニ難シ先六七歳ニナルニ及テ治ラ旋又ベシ治術ハ先扱ヲ以足底ノ形ヲ作り足ノ底ニアテ其大指次指ノ間ヨリ木綿ヲ取リ結ヒ膝下ヘ引ツクルニ其常足ノ形ニ成ヲ以テ要トス一日兩三度武羅牟登ニテ蒸シ引モトシ強テ歩行サズ

ヘシ急ニ効ヲ見ワサシトテ欲スルヲ十カ七譬ヘハ樹木ヲタメルニ急ニスレハ難シ緩クニスレハ意ノ如クナルトヲ示シ

○凡諸腫物膿ヲ能推シ出スヘシ然ラサレハ又大ニ腐ル者ニ又腫物重テ痛ヲ衆スルハ再ヒ濃ヲ成ス者ニ

○先生曰走馬疳ハ不治ニ然レ其初起口臭ク出血スル者ノ如キハ早ク治ヲ旋セハ治スルニ此症至テ毒猛烈ナル故三四日ヲ経レハ骨ニ腐ルニ及ビ腐ルニ及ビテモ腐リ缺唇ノ如キ者年十二歳ノ者ヲ治ス其餘數十人術ヲ旋セ疳皆死タリ此症多ク十歳ニテノ人ニアリ

○先生曰癰ハ先キリイルヨリ腐リテ后ニ内腐ル者ト

○先生曰予家ノ膏名ハ唐ノ李靖ノ陳法ニ拠ル故也
名ノ意ヲ知レハ則膏ニ効モ亦白ヲ知ル、也

○青蛇ハシメル丸ノ効^ハ_ハ^ハ_ハ^ハ_ハ^ハ_ハ^ハ_ハ^ハ_ハ^ハ_ハ^ハ_ハ 空ニ合スレハ能膿ヲ吸フ后
衝ハ上ヨリ毒ヲ押効アル^ハ_ハ^ハ_ハ^ハ_ハ^ハ_ハ^ハ_ハ 殘毒アリテ愈ニト欲
メ愈サル者ニ貼ス中^黄ハ能熱毒ヲ解ス先鋒ハ消
散ノ効アリ又托膿ノ効アリ

○先生曰天刑ヲ治セント欲セハ先其難治ノ症ヲ知ルベ
シ手足ノ肌膚潤澤ナク^ハ_ハ^ハ_ハ^ハ_ハ 乾燥メ光アル者又眼中黄色
ニメ精神ナク或又血ヲ帯ル者又肩背ニ毒ヲ發シ或脱肉
スル者皆難治ニ口眼喎斜スル者又合谷肉脱スル者^ハ_ハ 如
キ不治ハ虫疔治ニ因ニ終身カタル者也

○又曰天刑ニ灸治出血^泉ノ類皆効ナシ行ヘカラ又温泉
ニ^浴スル者ハ治シ易キ^ハ_ハ 症ト^虫反テ難治ニ至ル出血余
是ヲ数人ニ試シ已ニ暈倒ニ至ルニテ出血セシモアレド
又本へ反テ益ナシ且脱状^ハ及フ者モアリ又頑癬ノ如
キモノハ乱刺メ^蟻散ノ^類ヲ敷クベシ

○先生曰腐菜ニテ^瘡ヲ治スルニ^肉肉ト生肉トノ境ニ
イタレハ甚^腫脹ツヨシ可心得

○先生曰婦人久シク頭^ニ患テ^諸菜効ナキ者ニ桃
核承氣ヲ^共ヒ桃花^散 其^毒不^レメ甚能應スル也又挑人
油ヲ患^也ニ貼スルモノ也

○先生曰梅毒^{ナド}の^蕪茶ハ毒ノ猛烈ヲ折クモノ^ニメ
全ク効^シル^ハ八十^ニ

○先生曰白駮風ト云者アリ大ニ白癩風ニ類ス駮風ハ
癩風ノ症ニメ白點ノ班文アリ知ラツニハアルベカク
癩風ト治法異ナリ

○先生曰医タル者ハ廣ク書ヲ涉獵セツニハアルベカラ
ズ然レモ書ヲ読ニ法アルハ醫者ノ歴史ヲ讀ム如ク又レハ
假令數百卷ノ書ヲ読尽スト虫氏治術ニ益ナシ先ツ方
書ヲ読ニト欲セハ患者ヲ診スルヲ率トスベシ而メ仲景
ノ書ヲ規則トシ外臺千金ヨリ回春入門等ノ書ニ至ル
ニテ廣ク涉獵スベシ譬ハ今水腫ヲ患ル者治ヲ求メハ
外臺千金等ノ水腫門ヲ能引合セテ讀ムベシサスレハ後
書ニハ如此ノ論アリ此ノ書ニ又此ノ論アルヲ能記臆メ
其理ヲ得ルモノ也且醫者ト相照シ考フレハ白ヲ發明

スルヲ多シ如此メ數卷ノ書ヲ讀ム數百人ノ患者ヲ診
スレハ大ニ治術ニ益アリ且其ノ言ヲ忘却スルヲ七ニ唯歴史
ヲ讀ム如クスレハ此ノ症ニ此ノ治法アルヲ空ク看過
シテ其的否ヲ知ラス然レモ閑暇ヲハ博覽ヲ勤メ
異症ニ逢ハ、其方症ヲ抄寫スベシ是其大法ナリ

○痔漏ナトノ大患ヲ治療セント欲セハ終始風寒動搖
等ヲ堅ク慎ムスヘシ然ラサレハ風濕創口ヨリ襲入テ破
傷風ホノ大患ヲ發スルニ至リ頃一人瘡病ヲ發シセント
スルモノアリ

○先生曰瘡ヲ治セント欲スバナクニテ贅肉ヲトリ足ニ
然ラサレハ后日ニ翻花瘡トナル世ニ瘡ヲ誤治メ及花ノ
者多シ皆其初贅肉ヲ取り尽サバハ故也

○麻沸散瞑眩甚々不醒モノハ蘇香丹ヲ與フヘシ大ニ効

アリ

○先生曰凡外科ヲ為サニ欲セハ先内科ヲ精スベシ然ラ

サレハ治術ニ益ナシ今コレハ瘡瘍ヲ患ル者アリコレヲ診

スルニ陽虛ノ者アリ血虛ノ者アリ氣血共ニ虛スル者アリ

是ヲ能診視メ治術ヲ旋之且藥ヲ投レハ其常ニ復ス

速カシ若シ其理ヲ知ラツメ唯外治ノミニテ瘡瘍ヲ醫ス

寸ハ假令日ヲ歴ルト虫疔愈難之且愈難キノミニアラス在

再トノ遂ニ命ヲ損スルニ至ル者マ、アリ医タル者ハ其

氣虛タル血虛タルヲ診視シテ知ラズニバアルヘカラス

是ヲ知ルニハ内治ヲ精スルニアラスニハ難得シ又曰

今瘡瘍ヲ治スルニ氣血ノ虛スル者ハ愈ニト欲ス

疔愈カタル氣血ノ壯ル者ハ愈カタル者ト魚肝速

ニ愈ルモノ也

○先生曰痔漏ヲ切テ后疼痛発スル者ハ左突ニ乳没ノ

菜末ヲ煉リニセテ貼ス

○先生曰結毒ナドノ膿水尽テ后久シク肌肉ヲ生セサル者

ニハ蒜ヲ摺リ泥トナシ患処ニ貼之其上ヲ燒燬ニテ徐々

ニ熨スベシ若シ蒜ナキ疔ハ葱白ニ代ルモノ可也

○先生曰附骨疽ニ治ヲ施シテ后毒尽テ愈ニト欲スレ疔愈

サル者ハ陽虛ニ附子一朶末トナシ瘡上ニニキテ其上ニ

艾灸而陽氣ヲ助クヘシ附子餅ノ方附子ノ末ヲ以津液

ニテ餅トナシ錢ノ厚サニメ患処ニ放テ艾ニテ灸之微熱

シム痛シムヘカラス餅乾リ寸ハ易ベシ是則丹溪翁ノ方也

○先生曰淋疾ニテ小便閉スル者ハ正散ノ煎汁ニテ朱雀散ヲ服スレハ能通スル者ナリ

○又曰會陰打撲ニテ小便閉スル者ハ仲呂丸可シ一界子會陰ヲ打テ其腫溺道ヲ塞テ小便通スルヲ能ク呼吸息

迫メ已ニ死セントス因テ仲呂丸ヲ與テ小便後便ヨリ通セシメタレハ息迫少シ緩ミタリ然レハ逐水ノ劑ヲ投ニタル故其水何レ少シハ膀胱ヘモ及フ故一日経又如

前苦ム此時ニソソニテ利水劑ヲテハ効ナシ因テ予小腹ヲ刺シテ小腹ヨリ通セシメヨリ

○先生曰金瘡ヲ療后錠ヲ用スルハ凡ニ三日瘀水尽テ后ハ不用

○又曰金瘡家上盛ニメ割ヨリ下モ冷ヘ或ハ麻痺スルモノ

○ハ創神經ニカ、ルト知ルベシ

○又曰撒夫蓋ハ能胸中ノ毒ヲ解ス血症ニテ詰語スル者ニ與フレハ了然トメ爽シ

○燒酎ハ瘀血ヲ去リ新血ヲ生スルノ効アリ

○先生曰陽經ノ創ハ易治陰經ノ創ハ難治且屈伸ニ害アリ治シテ后若シ難屈伸者ハ圭支加木附湯ヲ與フベシ

○神經ヲ運ラス者ハ圭木附ニシツモノナシ然レハ血氣復セサル者ハ與フヘカラス脱血ノ者ニ木附ノ劑ヲ投スレハ陽勝陰負スル故アリ、ヨリ血氣調テ后與フベシ

○先生曰疹后痔漏或ハ瘰癧ヲ患ル者甚多之是其少之瘰癧ニアル者疹毒ニ仍テ一時ニ発シタル者ト見ユ予先年多ク

是ヲ治シタリ皆疹ヲ患テ后廿六日ニメ発シタル者ニ

故ニ皆鮮毒劑ヲ用テ効ヲ得タリ瘰癧ノ初起甚枯草
 煎皆應タリ既ニ潰タル者ニハ防風鮮毒湯ノ類ニ黃連鮮
 毒散兼用メ効ヲ得タリ此ノ時ニ療シタル者尽シテ治シタリ瘰
 漏モ亦黃連鮮毒散効ヲ得タリ大黃牡丹湯ノ症モ多ク
 又疹后勞症トナル者多ク予葉胡荽桂湯ニ鮮毒散ヲ兼服
 セシメ數人ヲ治シタリ長服セサル者ハ効ナシ

○先生曰凡腐菜ヲ用ルニ其贅肉ト生肉トノ分ヲシラサレバ
 治ヲ誤ルコト多ク其分ヲ能ク知リテ后治ヲ施スベシ此ヲ知
 ル法其生肉ニ鍼リ下セバ血滲出テ飛且鮮血ニ贅肉
 ノ分ニ鍼ヲ下セハ其血ニミクト出テ不飛且鮮血ニアラ
 ズ能ク意ヲ以テ其機微ヲ察スヘシ

○先生曰或人云走馬疔毒ノ一種ト云リ或ハ然ラシ走馬

疔ヲ患テ既ニ死期ニ至ル者ヲ見ルニ殆ニト疔毒ト同

○先生曰難産ノ後小腹ニ塊ノ如クナル者ハ子宮ノ腫タル
 ニテ必瘀血ナドニテ滿スル者ニアラス必桃核養氣湯十
 トヲ用スベカラス十全大補湯ヲ與ヘテ効アリ其甚シ
 キ者ニ至テハ膿ナト出ルコトアリ前方ニ金銀花ヲ加テ
 効アリ

○先生曰麻沸湯ハ散ニテ用ズレハ勢強クメ早ク瞑眩ニ吐
 出スル者アリ煎湯ニメ用ズレハ瞑眩スルコト遅シ吐出ス
 ルコトモナシ又人ニヨリテ瞑眩ノ遲速アリ故ニ醒ルニモ
 遲速アリ大抵一通リハニ戈用テ三時位モ覺メス三處
 用ズレハ翌朝ニテモ不醒ニ瞑眩スルト脉必ニナリ並ノ
 色モ黒ク粘ルモノ

○又曰散葉ハニ爰用テ能瞑眩ス煎湯ハ散ヨリ瞑眩遲ニ故二分量モ異ナリ

○又曰麻葉ハ諸書ニ出タルモ用ユル人少ク予始テ用覺ルリ世医ノ率ニ心撰ケウスキ故ナリ

○一人右足ノ小指一本ニメ爪甲ニツアリ是ヲキリタレハ骨モ二本アリシ

○放平トハ十ヶ出シノ一ニ膝蓋骨動カサル者ハ難治ノ風濕或附骨疽ニテ疽アルモノモ難治ノ腫痛杯アル者ハ反テ可治ノ症之先四五日前ヨリ蚯蚓油ヲ又リ術ヲ下スベシ若シ一度ニテ治セツハ二度ニモ三度ニモ術ヲ施スベシ曲ラサルヲ強テ屈メル寸ハ外骨抗或ハ筋引ツリテ裂ル可心得

○湯火傷ニ膿或ハ瘻ナト引付タレモノハバンドモ浮ミタル様ニ見ユレモ左ヤ右ニ十キ者ナリ此ヲ切シニハ先ツコロニメスニテ上皮ヲ切り両方ヘ引伸シ唯コロニメスヲ当ルハカリニテキレハ若ナリ

○犬毒ハ黃連鮮毒加木鼈子湯ヲ用ユベシ蟾酥ヲ膾ニメ食セシメ膏ハ中黃ニ杏仁甘草ヲ等分ニ入煉交貼ス

○肉瘤モ少シハ運轉スル者ハ腐葉ヲ指スニ瞑眩ヲ計テ入ヲ誤ルナカレ

○丹毒ハ乱刺メテリヤアカヲ可用

○先生曰婦人陰中腫痛ハ交合ナリ難キ者アリ涼榮湯火湯ヲ用ヒ洗陰散ヲ以テ陰中ヲ數洗フベシ

○先生曰瘰癧ハ色ウス赤クメ毒淺キヤウニ見ル者ハ數肉

ヲ見ルヤウニ者アリ白衣トテ漆コレ帯ヲ見ルヤウニ
ナル者アリ皆惡候之又疽ハ流注スル者之肩或腰トド
痛テ腫ル者真ノ流注ニ可心得

○先生曰油風ニテ小兒七八歳ノ時ヨリ既髮脱ル者其時
直ニ療治スレハ治ス日ヲ経レハ難治之脱落甚者ハ一
ノ内ニ大ニ脱ス海艾湯ニテ洗ヘ養神丹ヲ用ケレハ治ス
ルモノ也

○先生曰癩ハ暈ムケハ腐ル者之其暈ノ処腐肉ニ成リ
取レテ后又一寸モ腐ル者アリ是惡候也

○先生曰狼毒ハ我國ニ于シ大根草ヲ狼毒ニ當レモ此ノ
説分明ナラス狼毒ト各クルホドノ猛烈ノ者ニ非ス
香月牛山ハ海人草ヲ狼毒ニ當リ是モ亦不穩

○破傷風輕症ニハ葛根湯或ハ羌活湯或續命湯無患
子虎杖茎煎用ス反張スル者ハ如聖散モヨロシ

○先生曰流注ハ疵或ハ灸瘡ヨリ流注スル者之初起越婢
加木附湯或烏頭湯ニ紫丸兼用スレハ消散スル之脱症
ハ參桂附ノ劑ニヨロシ

○先生曰既ノ疵骨碎ケタル者ニ肉付ケアルハ其下、縫ヘ
之一人既ヲ碎ク者アリ予是ヲ療メ二十日許不特創口
ヨリ膿汁流出后缺タル骨ニ度一、テ出タリ然レモ全
ク愈ス

○先生曰既中ノ創ハ先ツ髮ヲ剃リテ燒酎ニテ洗ベシ
○先生曰紅花ヲ治夫藍ノ代ニ用スルニハ五六遍童便ニ
漬テ乾之用スヘシ

○先生曰打撲ニハ和經湯或ハ保生湯神草湯ノ類ヲ服
サシム患処ヲ武羅年登ニテ煎スベシ

○先生曰頭ノ疵膿ヲモテ耳或ハ鼻ナトヨリ出ルナリ

○先生曰面部ノ疵小ナル者ハ縫ワスメカスカハ羔ニテヨ

セ置ベシ左スレハ痕ニテラスカヒハ創口ヲ一寸程

開テ附クベシ

○又曰眼胞ノ疵ヲ縫キハ随多細キ糸ニテ縫フヘシ羔ハ

缺唇ノ如クメ可シ

○又曰瞳子ニ疵アル者神水不出者ハ治スヘシ神水出ル者

ハ明ヲ失フシ又瞳子ニ疵アル者ハ十日或ハ十五日モ

眼ヲ開カシムルナク

○先生曰予曾テ目上ニ瘤ヲ生メ目ヲ掩フテ見ルナク

ス物ヲ見レト欲スル寸ハ手ヲ以テ瘤ヲ揚ケルモノヲ療

ス愈テ后皮アツテ又目ヲ掩フ因テ又皮ヲ縮メ

テ常ニ復シタリ

○先生曰鼻ノ疵ハ糸ヲカケ置一時ニ結スヘシ不然レハ

鼻頭喝斜スル者ナリ

○又曰血ノ氣道ニ入テ氣絶スル者ハ活術ヲ以テ治スベシ

○又曰疵腸膜ノ上アルモノハ不治シ

○又曰突疵ニテ創口一寸位ノ者ハ縫フベカラス

○又曰腋部ノ疵ハ臟腑ニ近キ故ニ紐ニ膏ヲ不用金瘡

油ヲ用テ可ナリ

○又曰腸出テ大便出ル者アリ此疵ハ大腸入り易シ若難

入者ハ針ニテ二三処刺スハ即チ入ルシ又腸出テ時ヲ

移之入カタキ者ハ燒酎ヲ以テ温レハ入易キニ腸ヲ縫ニ

ハ縫少縫フヘ之不然ルハ腐テ大便出ルニ

○先生ノ弟鹿城先生金創ヲ療スルハ腸ニ疵アルヲ知

ラスメ縫テ后大便出テ患者治ラ青洲先生ニ請フ先生

是ヲ療スルニ腸ヲ縫タリ然レ后大便出

○遂ニ死ニタリ

○又曰失^矢疵瘡疵ハ治方突疵ニ同之能ク洗ヒ鷄卵左突ヲ

貼ス輕キ者ハ前衝ヲ貼之重キ者ハバルサニヲ貼スベシ

○先生曰腸痔ニ芎藭膠艾湯ヲ用ヒ治療后調和煎ニ

テ蒸サシム可シ脱血甚ニキ者ハ縛血散四物加牛皮消湯可シ

○又曰砒石斑猫巴豆烏頭湯^等ノ毒茶ハ皆熱物之故ニ是レ

ホノ瞑眩ニハ冷水ヲ飲ヒ飲マシムベシ

○又曰腐菜ヲ用ユルニハ瞑眩ノ形状ヲ不知ニハアルベカ

ラス腎腿ニ腐菜ヲ貼メモ必心下ニ上攻メ死スル者ニ

○又曰痔漏或諸瘡瘍気血虚メ新肉難生者雞卵左突

ヲ貼スヘシ

○先生曰^内血痛ニ腐菜ヲ用テ贅肉尽タラハ止ムベシ膏ハ左

突ニ換レハ生肉赤色ニ見ヘ破敵ヲ貼スル内ハ生肉ト

贅肉ト見分ケ難シ已ニ愈テ后消痛散ヲ煉茶トナシ

○毎日竜眼肉ノ大サ三度ツ、半年モ用ユベシ不然レハ

復起脹スル者ナリ

○又曰破敵ハ瘰肉アル者ニ貼ス左突肉ヲ生セシムルノ

ニニ貼ス

○先生曰小兒胎瘤ハ神循環セスメ溜ル故ニ針スレハ清

○水出テ翌日は是ヲ見レハ又溜リ二日メヨリ必発熱メ三四日ニメ死スル者之治療ハ最初灸メ水ノ溜ラサル様ニスルカ一術之蘭人ノ説ト云レモ相違ナシ多ク脊髓ニ附テ生スル者ナリ又少シ下ニ生スル者モアリ

○先生曰瘡瘍膿ヲ抜テ后又膿汁溜ルルハ必発熱スル者ナリ能膿ヲ推シ出スヘシ

○先生曰癰疽ヲ刺テ清水出ルハ膿ニサル者之血水交出ル者ハ自然ト癒ル者之治療メ膿易シ

○先生曰腸痔ヲ療スルハ血出ル者ハ実症之水血交リ出ル者ハ虚候

○先生曰蘭人乳岩ヲ裂テ銀治メ鉄心如キ者ヲ以テ核ヲ切リ取ルベシト云ヘリ如是スルハ蘭人モ虚

言アリ 速死スル

○先生曰乳岩ヲ患ル婦人経行ナキヤウニシレハ療治ムツカシキ者ナリ経行アル内ハ安シ

○先生曰乳岩ヲ患ル者妊娠スレハ核ニハカニ大ニナルモノナリ

○先生曰焼酎ニテ疵ヲ洗フニハ先ツ疵ノ四圍ヨリ段々内ヲ洗フヘシ

○又曰經ハ疵ノ半分ゴロニテ刺スヘシ長クサスルハ反テ愈速ニ二三日指テ瘰汁尽ルルハサスベカラス

○又曰膏ニカフルハ皆膿テ疵口離ル者ニ

○先生曰金瘡ノ膏菜ハリ替ルルハ一度ニ取ルヘカラス片午ニテ疵ヲ押ヘ四辺ヨリ徐々ニ一抜ツハキトルベシ若シ

出血ニソウナル片ハ維子木綿一枚ハ残シヲキ其上

ハカリ張り替テ置クヘシ不然レハ又出血スル者ニ

○先生曰舌若ハ木舌ノ如ク腫テ硬ク反肉ノ状ノ如クナリ
モノシ甚稀ナル症ニ

○又曰木舌ハ堅キ処ニ針メ血ヲトリ金鎖ヒヲ付ケ竹茹
黃連湯ヲ用スベシ

○先生曰痔漏ノ腐菜ニセツトシテ左突ニ煉交テ貼スレハ
肉裂テアシ、按毒散ハ穩メ患者堪ヘ易シ

○先生曰舌疽牙根ニ付者ハ治ニ難シ腐レ甚シキ者ハ舌
ヲ半分程モ切リトルヲアリ

○先生曰金瘡乳岩及諸腫物愈テ后跡少シツ痛ム者
アリ是神經ノメクラントスレモ愈付テメクラナル故ニ痛

ムモノニ

○先生曰小児胎中ニテ大指ヲ出シテ握リ唇ニ当ル故ニ缺
唇ニナルニ仍テ切レカ、リ薄皮残ル者ヲ見及ベリ

○先生曰痢疾流行ノ時ハ腸痔ニテ下血スル者ヲモ見誤
ル下アリ可心得又下血スル者ハ糞肉ヲ食セシムベシ膿
ヲ下ス者ハ堅ク禁スベシ

○先生曰癩疔ニ針セシト思フ先畢丸ノ処左ヲ見究メ其
側ニ針スヘシ丸ヲ遠クハナル、キハ水出ルヲ少シ

○先生曰跗上ニ附骨疽ヲ患ヘテ時々自然ト出血スル下
アリ是跗上ハ陽明經ニテ多氣多血ノ処故出血スルニ

○先生曰梅毒ニテ他症ナリ是ニ針メ血水ヲ出シ膿ニ豆腐
ノ渣ノ如キ者ヲ出スハ奇良附湯ヲ用スベシ不然レハ

后脱状ヲ見ワシ発熱十トシテ湿癩トナル者ニ早シ

是ヲ察セサレハ必治ヲ誤ルコトアル者ニ

○先生曰氣虚スルト表ノシニ薄クナル故ニ自汗盜汗出

ルニタトヘハ刀ニテ切ルハ人必絶倒ス血出ル故ニ絶倒ス

ルニアラス氣モレテ倒ルニ其処以ハ縫キハ必腫ル者

ナリ是氣ノコモルカ故ニ縫ワヌ内ハ疵口開ク疔腫ハ

工又モノナリ

○先生曰瘡口ニ鉗ヲ刺スニ補浮アリ可心得

○先生曰打撲ニテ腫ヲナス者手ニテ能揉時ハ消散スル者

○先生曰金瘡ニテモ咽喉腫テ膿氣アル者ハ排膿散ヲ

用ユヘシ

○先生曰痘瘡貫膿后湯湯ヲナス者ニ麦門冬湯ヲ用ユ甚ニ

キ者ハ竹葉石羔湯ヲ用ユ癰十トニテモ収斂ノ時渴

ヲナス者ニ麦門冬湯或竹葉石羔湯ヲ用ユ然レ疔癰

疽或ハ痘^十搨^十者ニ石劑ハアシ止テ得サレ故ニ

○又曰桂枝加木烏湯ヲ用ユ脱又ル者ニ可心得

○先生曰疵愈テ糸ヲ抜ク時必乾テ黒クナリテアル処

ヲ切テ扱ベカラス如此スレハ必痛ヲ發シ或出血スルコ

トノ故ニ糸ヲ又クニハ乾キタル処ト肉中ニアル白キ処

トノ間ヲ切テ扱クヘシ

○先生曰金瘡家大小便不利ナドノ症ハ必五七日モメ后ニ

生スルモノニ

○先生曰十日モ日ヲ経タル症ハ治メモ后破傷濕等ノ

癩ヲ生スルモノニ

○先生曰胎ノ疵ハ咳十ト出テ六カニキ者ニテレメニ

ヘリコニテ付泊夫藍ヲ用テ泊夫藍ハ胎中ノ菌瘕

ヲ甘バキ或産后疫症昏冒詰若スル者ニ用ル寸ハ忽チ

爽然タリ

○又曰指ノ入疵ハ指ニテ能ク洗ヘスホイトニテ吸トルヘシ

○先生曰伊良子ハカスハルト云蘭人ニ學ヒタル人ニ

○先生曰腸ノ切レ離レタル者ハ治シ難シ

○又曰陰莖ヲ切テ手足ノ先寧縮メ屈伸不自由ナル者

蚯蚓油ヲ又リ圭木附^用之べ之然レ疔血氣ノ復セテ

内ハアシ

○先生曰伏竜肝ハ能血ヲ留ル者ニアルメニヤ固ノ土ニ易

ヘ用ユ

○天刑其毒淺クメ表ニ斑十ト発スル者ハ薄荷萍加大黃湯ニ

端的丸ヲ兼用スベシ又一等重クメ^{斑ヲ発スル者}肩毛落脱^{防風}

通聖散ニ端的丸ヲ兼用スベシ又一等重クメ眉毛落脱ニ

或身体不仁十ドスル者ハ^毒木附湯ニ消毒丸兼用

スベシ又天水丸モ効アリ

○瘰癧ノ初起ハ正宗ノ十全流気飲ヲ用テ消散セシムベシ

○大頭瘰癧或暮瘰ニ小柴胡加石湯ヲ用奇効アリ傷寒論

○陽明篇ニ耳ノ前後腫ルノ症アリ予本方ニ石羔ヲ加ヘ

テ用ユ

○烏頭劑ハ水ニ合或ニ合羊ヲ以テ煮テ危合ヲ取レハ瞑眩

セス若シ右ノ如ク煎メモ瞑眩スル者ハ炒烏頭ニメ用

ユベシ

○先生曰治耳聾方サハルアルモニヤニイ一呆水ニテトキ紙一枚ニ引日ニテ干之卷キ如此メ細キ方ヲ耳ニサ之口廣方ヨリ火ヲ付薰スル一日一度ツ此方結毒上衝耳聾ノ者別テ其効著キ

○小兒鮮顛ヲ癸スル能平生ニ心ヲ付居ルベ之必ス癸熱牙関緊急天吊杯スル者之其時急ニ治スルハ救ワルヘ之若之遲キハ死ニ至ル者之是灵液ノタリテ回ラサル故之先年一小兒鮮顛ハカリノ如キ者ヲ強テ治ラセテ其救フヘカラサルヲ知テ諄々然レテ治ラセテカ故ニ止ムコヲ得ス其処ニ針ス水ヲ取り暫ク有テ面部十ト皴ヨリ漸クナクナリ牙縫ノ顛骨クサツ又様ニナリ乍死セニコヲ恐レテ其針口ニメイナヤラサシ水ヲトム三四日ヲ

經テ終ニ死シタリ此ノ症真ニ不治ニ早ケレハ葛根本烏紫四ヲ兼用メ治スル者ナリ

○小兒四支痿弱スル者アリ其症吳ト魚氏其毒ハ全ニト見ユ多ハ脊骨尖起スル者如此ナリテ治シ難シ早ク葛根本烏紫四ヲ兼用スレハ治スル者間アリ其初癸鮮顛ノ如クニ驚風ノ状ノ如ク癸熱痞^塞十トヲ癸ス予カ治テ早ク愈ルコヲ得タリ后四五日脚痿弱メ歩スルコヲ得ス予カ治テ經テ治タリ后八十日斗ニメ少シ歩シ其^後二三十日ヲ經テ平生ニ復ス大人癱瘓ト見ヘ殊ニ風引湯ヲ用ユルコアリ左右同ニ様ニ麻痺痿弱スル症ハ反テ愈ヤス之又一種偏枯ノ様ニ一脚ハ少シ痛痒ヲ覺エト云者アリ此惡症甚難治ニ加様ノ症ハ圭木烏ヲ長服セ

レハ其効ヲ見ス一二年モ長服メ治セシ者多ク中々狼狽
メ色々轉法メハ治セズ此ノ村落ノ者梅毒后肺痿ヲ発
セシ者アリ是ハ甚シキ症ニテ腸十トモテ痺シタヘテ二便不
通一劑利水劑一切効シテ小便ハカテイテニテ取テ
治シタリ蜜煎導杯ヤレ尿管中本ヨリ精氣ノ絶シタル
状ニナリ居ル故中々通セス予カ工夫ニテ大便ヲ十日廻リ
ニメ暇々メケリ付痛痒ヲ覺テ了三十日ニメ愈ス一全シ
其回リ付タル中阴茎勃起シタリ此ノ業勢回リ来ル故

○先生曰吉雄家ニテハ面部ノ疵ハ凡テ膏菜ヲ用ヒス缺唇
十トハ別メテニキテルヲ用ユルヨシ痕ノ付又ヤウノ為ニハ此
ノ方然ルヘキニケ処缺タルモノハ大人ハ一度ニ縫フニ

未熟ノ徒ハ二度ニ縫フヘシ縫方別々ニスルニ大抵十
ニ三日スレハ一方余程愈ルニ又一方療治出来ルモノニ
薩州ノ西村隨啓ノ治療専門也此ノ家ニテハツ切レ者
ヲ左右ノ唇ヲ一ツニカケ中肉ヲタノメス療治スルヨシ
其通りニテ療治シタル男此河上一里余処ニアリ其中
ハ肉高クナリ愈テ后甚醜シソレヨリヤハリ別々ニ縫タル
方カ手際ヨシ併シ西十カラ其切拙ニヨルナシ

○諸瘡頑肉アル者或ハ腐ラシ或切トルベシ残シ置片ハ
其内ニ膿氣アリテ愈カクニ假令愈テモ再発スルニ大抵
鮮血出ルヤウニ成タル片ハ止メテヨシ夫ニテ膿ノ生セガ
ルヲ徴トスベシ

○先生曰麻菜ヲ用ルト瞳子散大ニ脉モ弦數ニナルニ

○先生曰瘰癧中毒初起寒熱甚々委中腫痛遂ニ黒腐
ニナリコレ 針スルニ黒血ノミ出テ膿汁少シモ出ス膝蓋骨
凡テ上ニテ脱肉セズ宛モ天刑ノ脱肉ニ彷彿タリ己
ヲ委中毒人徴トスベシ不治者ナリ

○氣痛氣癭ハ不可下手

○眼胞或唇上ニ塊アルモノハ肉ヨリ古呂々年々須ニテ
切取ルベシ

○先生曰梅毒ニ耳下杯ニ凝血ニ破敵ノ瘻ヲ附テ一向膿
セズ腐兼又ルモノハカラアシクウヲサシキ古綿ノ如ク
ナリテ取ルハ若シ少シツク凝ルモノハ蜜陀錠十トヲ
サシキ漸々ニトルヘシ

○先生曰舌疔ニテ舌ノ傍少シ蝕シ反肉ノ形ニナリ凶劇

○テ腐リタリ已ニ治期ヲ失スル故辭セシニ強テ治ヲ乞
フニ因テ其反肉ノ形ノ如ヘセツトシテ付テ其反肉ヲ抜キ

○服茶黃連湯ヲ用ヒ舌疔薰茶ノ方ヲ頻リニ用ニ病人

○モ薰茶ヲ忍テ用ヒ都合ニ一兩一分薰タルニ薰

○劑夥シ其海日ヲ針ルニ三月十四日ヨリ治療ヲ初メ六月

○廿三日ニテニ全ク治ヲ謝ス口中ヲ見ルニ尽ク毒尽キ其

○迹ノミアリ含茶口ウサワヲ用ニ婦人年五十五者

○先生曰痔漏后衝ヲ付前位ニ一クリヲ焼キ散ニ疔口

○ニ杯ツメヲケハ二三日位ニメ早ク愈ルモノ

○諸瘍潰テ后十全大補加附子ノ症アリ可心得

○先生曰瘡瘍ニ虫ノワク者耐ニ丹凡少シ攪セ洗フヘシ
凡テカラニコウヲサシ已ニ腐レハ腐肉ノ分缺ニテ切取

ルベシ腸痔或ハ反花ノ萎

○疣十ト動キニクキ者ハカラアニコウヲサス若シカラアニコウヲサスニ甚急禁ノ場処ナレハ拔毒ヲ經ニ指シ其跡ニテカラアニコウヲ指スベシ

○先生曰鼻痔大ナル者且難取者ハ二度ニモ三度ニモ切ルベシ其内ハヤハリセツトシヲ指スベシ

○先生曰乳岩后ニ風興スルト動気ナド高フリ心下痞硬食不能者ハ多ク脱疽ヨリ発ル者ニ隨テ意ヲ用ユヘシ柴胡姜桂湯ノ場今トハ異ナリ

○先生曰諸瘍潰后脱症ヲ見ワシ面色青黄精氣虚スルモノハ雞卵雞肉ヲ食セシムベシ

○先生曰麻黄煎法酒一合五勺ヲ半分ニ煎之一度ニ服ス

ルモ可ナリ

○先生曰難膝風或結毒ノ動キ難キ者烏頭湯加角石圭木烏加角石ヲ用ルテアリ凡テ毒ノ動キ難キ者ニ行ク

○打撲十ト凝血スルト膿ニナレバ速ニ針メ可シ

○梅毒項首ニ強ク跃上ニ凝ル者ハ圭支加苓木烏細辛防風湯兼消毒丸

○先生曰疣痔ノ反花形容数ノ子ノ如クシ赤クメ肛口ニ有リ腸痔ト相似リ門人某云腸痔ナリト則チ不然是疣痔ノ反花セル之反花スル者ハ切取テ青蛇ヲ則メ可ナリ

○小兒鎖肛肛コロシメスニテ切テ五六分ニテ糞出ツ白雲ヲ綿ニ攤テ貼入服茶ハ甘連大黃湯ヲ用ユ

○一男子卵堂ノ処ニ黒子アリ腐菜ニテ取ル愈テ后数月ニ

○又来謝ス能見ルニ其処他ノ色ト已矣ナシ然レモ其迹
一分ナリ高ク腫タリ白雲散加密陀草ヲ貼ス

○先生曰乳岩皮膚腐爛スル者雞卵左突ヲ綿ニ攤テ右ノ
処ニ貼ス其上ニ前衛ヲ貼スル也

○先生曰口内ノ疵總テ眼中ニテモ結構ナリ灵液ナレハ地菜
セストモ愈ルモノナリ

○先生曰破傷凡ニテ角弓及張スル者ニ如聖散ヲ用テ効
アリ此ノ方ハ毒深キ者ニ用ユ

○先生曰破敵膏塞肉アル者ヲ貼ス塞肉十キ片ハ肉ヲ生ス
ルニハ左突ヲ貼スベシ

○先生曰腸痔ヲ療スルニ血出ルハ実症水血交出ル
ハ虚候ナリ

○先生曰京師岩永家ニテ痔漏ノ腐菜ハ紙カルニイト地
菜ヲシク故ニ痛甚シ予自^痔漏ヲ治スルニ腐菜ハセツトニテ

煉交セ用ル^ナアリ然レモセツトニハ肉裂ル故ニアニハ
今按毒散ヲ用ユ穩メ病人堪易シ

○先生曰舌疽牙根ニ付者ハ甚難治ナリ腐リ甚シキ者舌
ヲ半分モ切斷ツ^ナアリ

○先生曰医タル者病ノ機微ヲ知ラホレハ治療ハナラ又モ
ノ心余カ知已ノ者四年前ニ某ノ娘ヲ妻セト云モノ

アリ余カ云置シカラス他ニ娶ルベシト云ケレハ何故ニ
然ト云余カ云昏姻ハ血脉ヲ正メ娶ル^ナ天下普通ノ

ナ^リ予先ニ某ノ家ニテ酒ヲ吞シ^ナアリ予其時ニ惡疾ノ
徴ヲ見タリ夫レ第ニ癘凡ノ筋アリ狂氣ノ筋アリ何

徴ヲ見タリ夫レ第ニ癘凡ノ筋アリ狂氣ノ筋アリ何

レモ宜シカラ又者ニ或喜テ止ム予今日粉川ニ至テ其門
ヲ過レハ予ヲ招ク因テ立寄見レハ果メ彼娘二人在ニ其
毒ヲ発ス妹ハ定甲婦ハ予ニ毒アリ如是病ノ機微ヲ見
サレハ病ハ治セザルモノ也

○先生曰打撲ニテ膿ヲテス者予ニテ能揉片ハ腫消スル
モノ也

○先生曰十日モ日ヲ経タル症^{キズ}ハ治療メモ后必破傷湿ナ
トノ變ヲ生スルモノ也

○洵夫藍ノ用ヒヤウハ七分ヨリ或ハ一匁

○先生曰饅頭ノ粉ハ小麦粉ノ上品ナルモノ也カスカヒハ
張付テ能乾クニテ押テイルトシ

○先生曰突疵メイ子ヤニカフル者ハ金瘡油ニ椰子油ヲ

煉交セ用ユベシ

○先生曰鉄炮疵ノ玉トセザル者ハ其俣置クハ之取レス也
若シカラズ又四五日モスル内ニ腐テ膿ニナル也其時ニ
探ルハ出ルヲアリ縦ハ四五本モ大ニメサス膏ハ破敵

○人油ハ近年大坂雞波ノ穢多クニアリ若シ十キ片ハ家猪
油ヲ代用スルモ可ナリ

○先生曰凡テ薰菜ノ終リニ下サザレハ効ナシ梅毒又舌瘡モ
梅毒ヨリ来ルノ類皆竜門丸ヲ用ユ舌瘡ハ紫丹^三ヨロシ

薰菜ハ書中載ル処分量ニテ少シ故ニニツヲ一ツニメ用ユ
ルナリ

○先生曰脱疽痛ム者ハ未タ腐ラザル也痛ヲ不知ル
処ハ腐リタル処也

○市場布屋新四郎年六十余背ニ痘ヲ瘻ス大サ一尺二寸

○余其時ヨリ如是ヲ見ス治療百日余ニ又愈タリ

○先生曰脰瘻ハ大ニ腐ル者之経五寸長サ七寸ノ瘻ヲ

患ル者アリ咳スレハ腹中膜内ヨリ血出ツ予予ヲ腹

中へ入膿ヲ出シタリ然レ遂ニ愈タリ

○血氣道ニ入者神氣昏冒脈絶ス考フベシ

○先生曰石淋ハ石ノ如ク塩ノカタメル者之麻葉ヲ用テ

切割取ル^{ナリ}切ルニ六下ノ尿道ノ方ヨリ切ルハカラス

ホ水ノ通利アル故ニ疵口愈悪シキ之故ニ横ノ方カ又ハ

上ノ方ヨリ陰莖ヲ割^ル又切ルニ切ロヲ少シ開キテ石

見タシタラハ錐ヲ以テモ之碎キ其ヨリ毛引ニテ取ルベ

シ左スレハ疵口少ナル故愈易シ

○先生曰凡テ切割スルニ初ニ血ヲ出サレヤウニ防リベシ

初ニ出サ又様ニスレハ間ヲ経レハ出又モノ之タトへ

出テモ少シ

○先生曰金創ヲ縫ニハ高クナルヤウニ縫フベシソレニテモ

疵愈テ后ハ溝ニナルモノナリ

○先生曰金創ハ能々焼酒ニテ洗フヘシ左ナケレハ土砂ノ

類残ル^{ナリ}アリ尤凝血ヲ去ルベシ左スレハ愈ル^{ナリ}早シ

○痔漏ノ枝管ハヨク見分ケテ膏ヲ指スヘシ場処ニヨ

リ缺ニテ切開キサスベシ

○先生曰痔漏ハ大抵肛門ニテ明キ透フス者之ソレハ破

敵ニ接毒ヲツケサシテ穴ノ通ルヲ俟テヒスニテ切

ルベシ

○惣テ諸腫物ノ漏ニナリタルハヒスニテ切離サレハ治セ又モノ

○諸腫物ノ膿アル者附剝ヲ用エレハ濃リナル石羔剝ヲ用エレハ稀水ニナル者ナリ可心得

○先生曰癩疾眼中黄色ニメ精神ナキ者ハ不治也

○先生曰麻沸湯ヲ用ニト思フハ診察ヲ能スベシ血氣不爽

○胎中滯疼者水アリ或心下痞鞭ノ者ハ決メ用ユベカラス

先其服部ヲ療メ后共フベシ麻葉ハ氣血経絡ヲ一時ニ

メルニ大抵十ノ者五六分モシメルト見ユ尽クシメルハ

ハ死ス

○先生曰咽喉ニ近キ処ハ腐葉施シ難シ咽腫レ塞リ飲食

通り難キハ救フニ術ナシ

○百葉ノ瞑眩ヲ治スルニ鉛ニ炙ラ煎テ服ス

○凡腫物乾キ難キ者ハ六君子加土茯苓効アリ

○小兒禿瘡愈后迹赤ク光リ毛ヲ生セサル者半夏ノ

末ヲ煉リ貼スレハ白ラ髪ヲ生スル者ナリ半夏ハ粘液ヲ

稀釈スルノ効アリ半浮ノ葉ヲ以テ見ルベシ

○先生曰梅家骨腫ト云モノ皆敗液脂膜ノ中ニ溜リテ

スルモノ也

○毒箭ニ中ラハ其疵ヲ冷水ニテ洗ヘ療スベシ

○先生曰一男子突然トメ指頭大ニ痛ヲ發ス他症ナシ甘

一味ヲ濃煎ニメ共フ一貼ニメ愈タリ是急迫ヲユルメ

故也

○黍ヲ諸菜ニ合スルニ株欄箒ニテ攪ル牛忽子末ト

○ルナリ

○先生曰腸癰ノ奇方本劑ノ内阿片ヲ加フ

○先生曰真ノ癰ハ累々トメ珠ノ連ルカ如ク或ハ肩或ハ

腋下ニテモ及フ者ニ梅癰ハ只二三塊アリテツト根

深クアルカ如ク是ヲ以テ分ツベシ

○梅毒ニテ齒齦ニ毒ノ及フモノ口瘡ニ紛レ易ク結毒ハ齒

齦ノ蝕スルカ如ク口癰ハ齒齦及肉ノ形アリ

○先生曰癰赤遊丹毒ニ似タリ心ヲ付ヘテ筋ヲ見ワス

モノ也

○允梅毒結毒ニテ大便通セサル者應鐘散佳ニ他疾ノ

モノ消塊丸可ナリ

○先生曰癰癰ハ先初起及枯草煎或ハ海藻湯ヲ用ヒ消スル

者也若シコレニテ消散セサル者ハ披針ヲ刺シ殺キ

經ヲ揉ヲクシ若シ癰ノ浮シ癰々タル者ハ麻葉ヲ用乳

岩割法ノ治ニ從フベシ

○先生曰黒子大ニメ尖起スル者ハ毒ニ取ヘカラス及花

スル者ハ一病人十五年前腐菜ヲ以テコレヲ取漸々反

花メ搗実ノ如クナリ来テ治ヲ乞フ即チカラアンスヲ

附后衝ヲ貼ス此度全ク治ス凡又再反花スヘシ

○允テ皮薄キ処ハ輕キ腐菜ヲ用エベシ

○烏頭ノ癰腫ヲ治スルニハ菘豆煎或黃連解毒三黃湯

心湯腐菜癰腫ニハ石連甘草湯ニ宜シ

○先生曰包莖ノ及花ハ麻沸散ヲ用ヒ缺ニテ切トルヘシ症
ニ因テ腐菜ヲ付ルヲモアリ一人包莖ニテ三処及花メ臭

氣甚之缺ヲ以是ヲ切ルニ陰頭少モナキニ似たり能察
 スルニ左ニハアラヌ陰頭ハ存テ元來辺ノ皮反花スル之其
 反花ヲ尽ク切テ本リ白雲ヲ付尿道亦之アリヘ之若之出
 血スル者ハ決勝ヲ付ヘ之又青蛇或ハ后衝ヲ貼ス
 ○一男子疼疱ヲ患フコレヲ切レハ疼血出テ一旦ハ治スレ
 凡間モナク又本ノ如クナリテ四五歳不治メ未テ治ヲ乞是
 撮ト西側ニ針ヲサシ血ヲ絞リ加呆ニ陳湯ヲ用ユ若^苦曼散
 ヲ敷テ治ス

○一婦人左ノ腮耳ノ前ニ二塊ヲ癸之硬軟交接メ聯珠ノ
 如ク是ヲ推スニ痛少之微之寒熱アリ口中ニモ毒散乱メ
 咽喉齒齦ニテ傷爛ス且右ノ耳前ニモ一塊アリ失榮ニ似テ
 失榮ノ如ク痛ニス五宝母ヲ用テ治セス真ノ流注ハ甚々

稀ナル者之多ハ疵或ハ灸瘡ナトヨリ流注ス氣ヲ付テ
 見ヘ之正宗ノ説トハ大ニ異也一人年二十余腋下漫腫
 是ヲ推スニ痛シアリ塾生診スルニ名状スル者ナシ予カ
 云是流注也其左足ヲ見ルニ果メ疵アリ是外因ノ流注
 ナリ越婢加朮烏ニ紫丸兼用メ全ク治ス

○先生曰鎖肛ハ菊坐アツテ小孔アル者ハ治之易シ陰門
 中へ糞ノ出ル者ハ治セス陰門ノ傍或會陰ノ辺リニ小孔
 アル者ハ曲リ探リヲ以テサクリ次第ニ肛ノ方ヘキリ指ス
 ○二本入ル位ニメ綿ニ白雲ヲ攤ヘ挿スベシ世医扱針ヲサ
 シ經ヲ入ルノ事ニテ孔ヲ大キクセサル故不治

○鎖陰モ鎖肛ノ如ク扱針ヲ以テ開クヘ之指三本位入
 ル程ニメハリカタニ破敵ヲヌリサシ置クヘ之子呂ノ口ニ

テ開タル者ハ至テムツカニキ者ハ尤剪リ開ク
○尿道ニモ取門ニモカテイテルノ萎ヲサシ置キ余孔ハ破
テサスヤウニ気ヲ付ヘシ后ニハソロフヲ貼ス

○先生曰難産ニテ尿道破裂ニタル者ハ早速治療スヘカ
ラス大抵百日位モ過テ療スヘシ缺唇ノ法ノ如シ西方ノ
皮ヲキリ縫フヘシ切ルニハホソリ缺ヲ以テスヘシハサ
ムニ甚便ナリ

○先生曰一女子火傷ニ因テ右ノ手ノ指四本皆屈テ不伸メ
愈付タリノ麻葉ヲ用テ四指ヲ切リ伸シ白雲ヲ貼シ漆木
ヲ入后及花ス青蛇ヲ貼メ全ク愈ユ

○先生曰医タル者ハ病ノ機微ヲ之ルニアラフハ治
療ニ効ナシ

○又曰医ハ宋儒ノ究理ノ学ノ如ク先ツ人ノ平常ノ
身ヲ得ト能知リテ而后其人ノ病アル処ヲ見サレハ
知レ又者ナリ明医トテ他ナシ平常ノ処ヲ知テ其
病ヲ察スルニアリ

天保二辛卯年三月中隣東都神田豊嶋町二丁目
河野塾ニ於テ寫ス

片桐敏小絃
片桐敏行

inches
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 8

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black
[Patch]								
[Patch]								

